中世衣装の紹介

小袖

大人用・子ども用

女性庶民

「小袖」は，袖口の開きが小さい衣装を意味し，その動きやすさから平安時代末期ごろから普及しました。

当初小袖は，公家や武家では下着とみなされていましたが，戦国時代以降は武家の夫人の正装となり，現在の和服の元となりました。

筒袖・括袴

大人用

男性庶民

袂のない筒状の袖の衣服で，古代から庶民の仕事着などに用いられました。

括り袴は，裾にひもを通し，足首や膝下で括ることができるようにした袴で，公家から庶民に至るまで幅広く用いられました。

壺装束

大人用・子ども用

公家・武家女性の外出着

名前の由来は，衣服を腰でつぼ折り（つぼめてはしょった形）にして歩きやすくしたからといわれています。

胸のあたりに懸帯をかけ，足には緒太という草履をはき，市女笠をかぶります。

五衣小袿

大人用

公家女性

肌着の上に五枚の衣を重ね，上に小袿を着用します。

この上に唐衣（腰までの丈の上着）・裳（腰に巻く衣）を着用すると正装（俗称：十二単）となります。

袿

大人用・こども用

武家女性

平安時代には，貴族が着用し，鎌倉時代になると，武家の女性も着用するようになりました。

武家では簡略化され，小袖に帯を締め，その上に袿を着て正装としました。

上のイラストは，単を省いた，より簡略な姿です。

狩衣・指貫

大人用

公家男性

平安時代から着用されるようになった衣装です。

もとは民間で着用される麻製の実用着でしたが，公家の略装として取り入れられ，絹や綾で仕立てられるようになりました。

鎌倉時代には，武家の正装として，儀礼でも着用されるようになり，現在も神職の衣装として用いられています。

直垂

大人用・こども用

武家男性

もとは庶民の衣装でしたが，鎌倉時代以降，武家の間で着用されました。

麻のほかに絹や紗などの絹織物でも仕立てられ，色も様々でした。

現在も，相撲の行司や雅楽の演奏者が着用しています。

水干

こども用

公家・武家の男性

平安時代から着用されるようになった衣装で，狩衣を簡素化した服装です。

名前の由来は，糊を使わず板などに水で張り付けて干した生地を用いるからといわれています。

はじめは庶民が着用するものでした，やがて官人や武士も用い，鎌倉時代以降には狩衣と同じように武家の礼装となりました。

陣羽織

こども用

合戦の時に着る羽織

武士が合戦の時に具足（鎧）の上に着用したものです。室町時代中頃から用いられ，具足羽織，陣胴服などともいわれました。

防寒防雨用として発達し，しだいに大胆華麗な文様や色彩で個性を出し，敵味方に自分の強さを見せつけるために使われるようになりました。